

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500810		
法人名	株式会社 桔梗グループ		
事業所名	グループホーム ききょう苑		
所在地	千葉県千葉市緑区あすみが丘8-6-1		
自己評価作成日	令和5年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域に根ざした真心とおもてなしの介護」を理念として掲げ、利用者の皆様やご家族様、ご来苑される皆様に、気軽にお越し頂けるよう、また気持ち良く過ごして頂けるように、心のこもったお手伝いや接客を心掛けています。
 コロナ禍のなか、思うようなお手伝ができない状況ではありますが、利用者の皆様には、お元気に楽しく、日々穏やかに生活が送れますよう、ご家族様には安心してご家族様をお任せ頂けるような苑を目指し、職員一同頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

みんなが穏やかに過ごし、自立した生活を送れるよう支援している。利用者の7、8割は月のカレンダー作りや折り紙などの創作活動に参加している。段取り・準備を工夫することで作品を完成させ、達成感につなげている。料理の準備や調理にも参加してもらい、能力の維持・向上を図っている。利用者は職員とともに、餃子や天ぷら、煮物などを作っているとのことである。入浴は原則週2回、午前・午後に分けて支援しているが、自立度の高い利用者は、午前中なら自由に入浴することができる。ホームは、できる限り、利用者が自分の家にいた時の延長のような生活が送れるような支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした真心とおもてなしの介護」を理念に挙げ、各ユニット毎に常に職員の目の届くところに掲示し、申し送りやミーティング時に唱和するよう心掛けています	各ユニットの入口や職員ミーティングの場所に理念を掲示し、会合時には唱和するようにしている。申し送りノートに気づきを記載したり、打ち合わせで理念の実践の振り返りをおこなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや地域の民生員の運営推進会議への参加や、地域交流に努めていましたが、コロナ禍で中断しています	コロナ禍以前では2か月に1回の割合で、歌、踊り、フラダンス、琴演奏などのボランティア活動や高校生の体験実習を受け入れていた。現在は、散歩中の公園で保育園児と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出掛けた際には、なるべく近隣の方々とのコミュニケーションとるなど、関係を維持できるように心掛けています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね年4回の運営推進会議を開催して、他のGHや民生員、地域包括支援センターに外部の情報を提供して頂き、それを参考に以後の支援・サービス向上に活かしています(現在は職員だけの会議としています)	コロナ感染予防のため、現在は施設内職員だけで実施している。外部者の出席がないため、活動報告は省略して、事故報告とその対策、感染予防報告をしている。	活動予定、報告を外部の会議メンバーにも伝え、併せて質問や意見を募ることも促される。話し合った回答を議事録にして送付するなど、双方向の会議とする工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多くの関連機関と関りを持ち、地域の支援センターや民生員の方に運営推進会議に参加して頂き、その他支援課の方とは生活保護の利用者の件で協力を得ています	急変時、すぐに病院搬送できる協力体制がある。地域で医療・福祉のネットワークを構築しており、法改正や施設運営について意見交換している。市の担当部署とも連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束等適正化における会議を行い、都度問題があれば提起し、話し合いにて拘束の無い介護を心掛けるようにしています 同様、身体拘束マニュアルや研修時の資料を基に勉強も行っていきます	「身体拘束適正化会議」を開催し、身体的拘束等適正化のための指針、やむを得ない場合の実施の手続きなどについて確認をおこなっている。また拘束廃止の観点に基づき、利用者の状況確認と身体拘束をしない対応策を協議している。	指針の中に「身体拘束廃止委員会」の設置を定めているが、構成員が明示されていない。議事録に出席者の記載もなかった。議事録の配布先、職員への周知方法も明確にすることが促される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を基にミーティング時に話し合いをしています		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないですが、機会があれば参加を心掛けています ご家族の意向を考慮しながら良い支援を行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、ご家族様の話聞いた上で納得頂けるよう説明しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族様とは常にコミュニケーションを図り(現在はTEL)話し易い環境を整えています	以前は利用者の居室で家族の面会をおこなっていたが、コロナ禍のため玄関先での面会としている。これを受け、家族の来訪が減少し、意見、要望を聞く機会も少なくなってしまうている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時にや日々の休憩などに話し易い環境をつくるように心掛けています	職員同士の仲が良く、何でも言い合い、補い合える関係を築いている。介助、設備や待遇などに関する職員の要望や意見は、フロア管理者や事務長を通じて経営者に伝わっており、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の働き方や希望休などを考慮し、働きやすい環境作りを心掛けています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を考慮し、働きながらトレーニングや研修に参加できるように努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流をする機会を作り、ネットワーク作りやサービスの質を向上させる取り組みを行っています		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様やケアマネより情報を聞き、その情報をもとに、利用者様に寄り添い安心して頂けるように心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話し易い環境を作り、安心して不安や悩みを話せるよう、看護師他、職員にも同席してもらう		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の話し合いの際にご家族様の要望や利用者様の意向を理解した上で、当方の支援に限らず一番良い選択ができるよう提案しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様を家族のように接し、一方的に押し付ける事はせず話し合いながら行っています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様の望みを出来るだけ叶えてあげられるように、ご家族様と密に連絡を取り合っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の方達等がいつでも来苑できるよう、面会時間の制限はなく、以前の生活を続けていけるよう支援しています(コロナ禍にて多少の制限はしています)	コロナ流行以前は、海へのドライブ、桜の公園など馴染みの場所に出かけていた。現在は電話で家族や友人とつながりを保っている。携帯電話を持つ利用者は、居室で職員の介助を受けながら通話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様の性格を理解し、気の合った同士が関りを持てるよう、席を変えたりスムーズに会話ができるよう職員も一緒に係わり支え合えるよう支援しています		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様やご家族様とも何かあれば連絡が取れるような関係作りを入居時より行っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様と会話をし、何を希望しているかを理解し、できる限りの対応を心掛けています	入浴、食事など、利用者がリラックスしているときに話をしている。会話が困難な場合は、表情・仕草からくみ取っている。食事の味付けが薄く食欲が出ない利用者には、少し濃いめの味になるように工夫した結果、食欲が出た例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や協力関係者等から今迄の様子を確認し、職員同士情報共有できるよう、ファイル管理しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の出来事やレクリエーション等の能力はケース記録や介護日誌にて把握し、バイタルチェック・排便記録にて日々の健康管理や心理状態を把握しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者様の変化に応じた支援ができるよう、必要に応じて会議を行い職員やご家族様、ご本人の要望が反映できる介護計画を提供しています	短期目標は6か月、長期目標は1年で更新を基本に、状況変化に応じて見直しをしている。見直し時は、利用者家族、医師、看護師、職員全員から意見を聞くようにしている。計画作成後は、申し送りで計画書を確認するように全員に伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録にて時系列に記入、介護日誌には日々の変わった出来事などを記入し職員全員で共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズや対応については、その都度直ぐに対応できるようにしています 直ぐに判断できない時は、職員全員で話し合い要望に沿う支援ができるよう努めています		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの能力を把握し、ご本人が自身の能力を発揮でき安全・安心できる暮らしを支援するよう心掛けています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当方での医療体制(訪問診療や協力病院)もありますが、どの医療機関を利用するかの選択は、ご家族様の意向を尊重するようにしています	月2回の訪問診療、週2回の訪問看護で健康管理をしている。家族の希望や訪問診療医の指示で専門医を受診する場合は、家族の同行が基本だが、難しい場合は職員が同行している。診療結果は家族に連絡するとともに職員間でも共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回、正看護師が勤務し介護での気づきや心配事を相談しながらアドバイスを受けるなど協力体制をとっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に病院関係者と連絡、相談をしながら関係を築くようにしています 利用者様が入院された場合、ご家族様の心配をなるべく軽減できるよう当方から病状等を聞いてご家族様にお話するようにしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で重度化した場合における指針を書面にて説明し理解を得ています ご家族様の意向に副った支援を心掛け、変化に伴ったご相談や看取りを希望される等、それぞれに合った医療機関を選択できるよう支援しています	入居契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を基に説明し、同意を得ている。状況の変化に応じて、医師が看取り期と判断した場合は、医師から家族に説明し、職員は情報を共有して支援をしている。看取り研修も計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを掲示し、慌てず対応できるよう常に話し合うようにしています マニュアルを必要に応じて見直しをするようにしています(職員が講習を受け実践力も身につけるよう支援)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練では、色々な場面を想定し、可能な時には消防機関に協力を得て消化器の取り扱い等の訓練も行っています 自家発電も設置し、災害への対策を強化しています	年2回、火災、自然災害、夜間想定で消防署の助言を得ながら訓練している。自家発電機の稼働訓練も同時におこなっている。備蓄食料は7日分準備している。	備蓄食料については、備品の一覧表があってもよいと思われる。また、事業継続計画(BCP)の作成に繋げることを期待する。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持ち、声掛けや対応をしています	日常的な場面、特に排泄介助や入浴の時には羞恥心に配慮し、尊厳を傷つけないような支援に努めている。また、居室に入る時には必ず声をかけるなど、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が決定できるような声掛けをしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が全員同じ事を行うのではなく、個々のやりたい事を自由に行えるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着替え等、ご自身で好きな物を選択できるよう、声掛けやアドバイスをしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	庭で採れた野菜等を食材として利用したり、下ごしらえや片付け、できる方には調理までして貰うなど一緒に行っています	ホームの菜園で採れた野菜を使うことがあり、大根、ブロッコリー、タラの芽など調理している。利用者も状況に応じて調理に参加している。また、正月や誕生日には行事食を提供するなど、食べる楽しみをつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分量を記録して不足している物は一日を通して補えるようにしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様個々に合った口腔ケアで支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄を記録し、利用者様個々のパターンに合った排泄方法で支援をしています	排泄チェック表を作成し、個別の排泄パターンを職員間で共有し、トイレに誘導するなど、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく食べ物や水分摂取にて自力排便ができるよう支援をしていますが、一定の期間排便が無い場合等薬の力を借りて排便を促すようにしています(牛乳やヤクルト等の取入れ)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、曜日や時間は決めています但体調や利用様の意思に合わせて変更したりしています	入浴は週2回を基本としているが、入浴が好きな利用者は週4回入浴することもある。体調や、気分に合わせて時間を変えたり、日にちを変えるなど臨機応変な対応で入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に良眠できるよう、日中の過ごし方を個々に工夫しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書は職員がいつでも把握できるようにまとめ、誤薬を防ぐ為に職員同士で確認しながら服薬をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考に、個々に合った気分転換ができるようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のADL状態を把握し散歩や外食等を行っています 遠くに行けない時には庭で日光浴等して楽しんでいます	感染対策で遠方への外出は控えているが、家族同行の墓参りや外泊は抗原検査で陰性であることを条件にして支援している。ホームの庭で日常的に外気浴をしたり、近隣を散歩している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、ご家族様の了解を得てお金を所持し、買い物時は利用者様ご自身で支払うもできるよう支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用可能としていますし、携帯電話の持ち込みも必要であれば可能としています 手紙等、必要であればお手伝いをしながらやり取りができるようにしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、掃除や整理整頓は毎日行い、ご自身でできる方には声掛けや見守りにて行って貰うようにしています	利用者と職員と一緒に掃除をしている。また、換気を定期的におこなっている。季節ごとに、職員と利用者が一緒に壁に飾る作品をつくって掲示して、季節を感じてもらえるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不満が無いよう、個々の要望を聞きながら配置を変えたり座る場所を変えたりしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の住んでいた家の空間と同じように、使い慣れた家具や物を置いて居心地の良い空間を作るようにしています	使い慣れたタンス、ベッド、テレビやいす、仏壇、家族の写真などが置かれている。ホームでは、できるだけ自宅で過ごしているような居室にしてもらえるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間が危険にならないよう、余計な物を置いたり飾ったりしないようにしています トイレや居室等の区別がつくよう、手作りプレートを飾ったりしています		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと